

ロウイングは、艇の進行方向に背を向けて座り、オールを単純なテコとして使い、筋力で進むスポーツです。

1 ロウイング・漕艇・ボート

Rowing

ロウは英語でrow、「漕(こ)ぐ」ということです。ロウイング rowing とは、「漕ぐこと」です。ローイングともよく書かれます。本書では発音の近い「ロウ」で記述します。日本語では、漕艇(そうてい)、ボート、競漕(きょうそう)などとも呼ばれます。ひとつの艇に乗るチームは、クルー(crew)と呼ばれ、漕手(そうしゅ)と舵手(だしゅ; コックス)で構成されます。漕手はオールを持って漕ぐ人で、舵手は舵(ラダー)の操作と漕手への指示を担当します。舵手のいない艇もあります。

2 競漕艇(ボート)

Boat, Shell

競技スポーツとしてのロウイング(競漕、漕艇)で使われるボートは、艇(てい)、競漕艇、シェル(shell; 卵の殻や貝のこと。船体が卵の殻のように丸く薄いこといから)、スカル[scull; 語源はオールのタイプ)などと呼ばれます。

公園に浮かぶお椀ボートとの違いは、「座席が前後に動き、脚力を利用して漕ぐ」ことです。また、競漕艇は、まっすぐ速く進むことを目的としているので、軽量で細長く、船底は丸い形をしています。またオールの支点となるオールロックは、舷側(げんそく、船の「へり」の部分)から張りだしたりガー(外に張り出した艀装(ぎそう))にとりつけられています。

3 オール

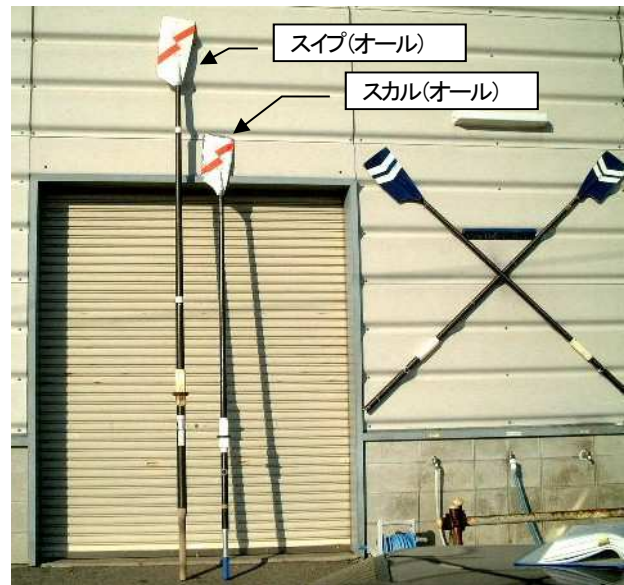
Oars and Sculls

オールのタイプは大きく2つに分けられます。

- ・スィープ: 漕手一人が1本のオールで、艇の片側を漕ぐ。
- ・スカル: 漕手一人が2本のオールを持ち、両舷を漕ぐ。

スィープとスカルは、オールの種類の呼び名ですが、そのオールを使う艇の種類の呼称としても使われます。オールという言葉が、狭い意味での「スィープ」の意味に使われることもあります。一般に、漕手数の同じ艇では(たとえば、ダブルスカルとなしペアを比べると)、身体と艇に対する運動の対称性により、スカルがスィープよりも高速です。

(注: スウィープ、スィープ、スウィープなどは同じ sweep です。)



スィープオール(左)は長く、スカルオール(右)は短い。

4 艇の種類(競漕種目)

Kinds of boats

現在、国際的に使用されている競漕艇は、すべてシェル艇で、現在8つの種類があります。

その他の艇として、日本では、ナックルフォアがあります。つきフォアと同じ、舵手付きの4人漕ぎスィープ艇ですが、横断面形状が指関節を曲げたように平面的で、重い艇です。この艇は、1990年前半には本格的なレースから廃止されましたが、市民レガッタなど初心者向けのレガッタでは、現在も使われ、練習で使っているクラブもあります。

オーシャンスカルは、偏平で安定のよいダブルスカルの一種で、中学のレースなどで使用されています。フィックスは、スライディングシート艇より一時代前の艇種で、固定席の6人漕ぎ艇で、カッターに近いものでした。

※現在の日本の高校生の公式レースは、スィープ種目がなくなり、スカル種目に統一されています。つまり、舵手付きクォドルプル、ダブルスカル、シングルスカルの3種類です。

種目	略号	舵手	漕手	タイプ	全長	最低重量	解説
エイト	8+	あり	8名	スィープ艇	約16m	96kg	競漕艇の中では最も速い。
クォドルプル	4×	なし	4名	スカル艇	約12m	52kg	エイトについて速い。
舵手つきクォドルプル	4×+	あり	4名	スカル艇	約13m	53kg	ジュニア、女子種目として復活。
なしフォア	4-	なし	4名	スィープ艇	約12m	50kg	国際的にはつきフォアよりも主流。
つきフォア	4+	あり	4名	スィープ艇	約13m	51kg	日本での普及度は一番である。
ダブルスカル	2×	なし	2名	スカル艇	約10m	27kg	2人漕ぎでは一番速い
なしペア	2-	なし	2名	スィープ艇	約10m	27kg	技術的には最も難しい。
つきペア	2+	あり	2名	スィープ艇	約10m	32kg	シングルスカルより遅い。
シングルスカル	1×	なし	1名	スカル艇	約8m	14kg	唯一の個人種目